アフリカの今

県人支援の現場から

ザンビア編 ②

看護師不足 変わらず

お産を待つ家

吉野川市山川町のNPO法人TICOのザンビア事務所で働く田村幸根さん(29)＝三重県桑名市出身＝は悩んでいた。

「実績？　うーん、それがなかなかね」。TICOが2012年11月、ザンビア中央部モンボシ地区に開設した出産施設「お産を待つ家」の利用状況を聞いてみると、田村さんの顔が曇った。

お産を待つ家は、妊婦が待機できる個室4室と充実した機器の分娩室を併せ持つ施設。隣接する診療所でも看護師のアイビー・チヨタ・ムクンバさん(47)がお産を扱っていたが、待機施設はなく前から宿泊でき、安全に出産できる」。そうした期待を背負って新施設はオープンした。

ところが、2月になっても新施設でのお産はゼロ。待機施設の利用者は数人いたが、お産の際にはわざわざ診療所まで移動していた。

設備も劣る。さらに、モンボシでは交通事情の悪さから診療所まで何時間もかかる地域が多く、自宅出産で母子が命を落とすこともあった。

「妊婦が予定日2週間するムクンバさんだけでは新施設を運用する余裕がない。ムクンバさんにとっても慣れた診療所でのお産の方が都合がよかったのだろう。

「診療所でのお産は中止する計画でしたが、無理は言えなくて」と田村さん。「取りあえず現地に行ってみましょう」と、首都ルサカの事務所から北に約100キロのモンボシへと向かった。

幹線道路を経て道なき道を進むこと約2時間、トウモロコシ畑の中にお産を待つ家と診療所はあった。看護師の宿舎も見える。いずれも国際協力機構（JICA）の事業の一環として、TICOが徳島県内外から寄付金を集めて建てた施設だ。

お産を待つ家に入ってみた。分娩室をのぞくと、新生児ベッドや酸素ボンベなどの真新しい機器が並ぶ。

「これを使わないのは宝の持ち腐れだ」。そう思ったところへ、診療所に立ち寄っていた田村さんが勢い込んでこちらにやって来た。「生まれてました。2日前に赤ちゃんがここで生まれてました」。出産記録を取り出し、ページをめくる。

「あった。これです」。田村さんが声を上げた。「2月10日、3600グラム、男の子」と書かれていた。近隣のカリミナ村で暮らす38歳の女性が産んだ第6子だった。

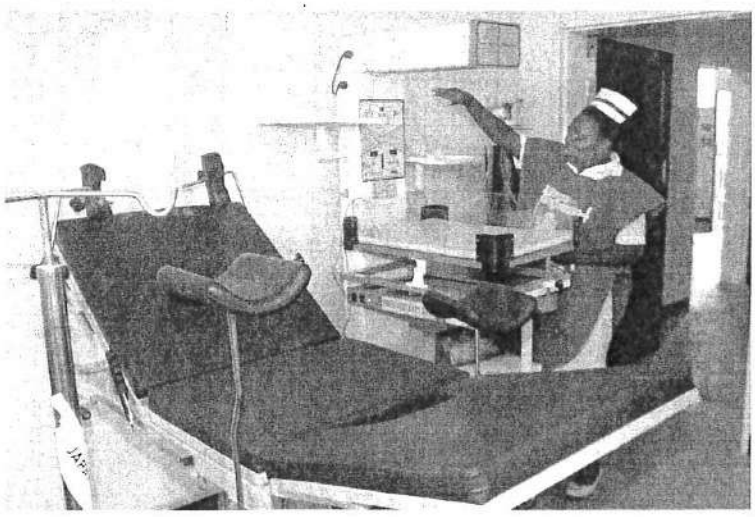
看護師の宿舎でムクンバさんに話を聞いた。意志の強そうな目をした恰幅のよい女性だった。

「新施設の方が安全に分娩できるのは分かっていたんだけどね。地域のためにという一心で働いているけど、マンパワーが足りない」。ムクンバさんも悩んでいた。09年3月に診療所が開設されて以降、24時間体制で働きづめの毎日だ。

「でも、始めた以上は、できる限りやってみようかね」。そう言うと、大きな体を揺らして立ち上がった。

あれから2カ月。お産を待つ家で40人近くの小さな命が産声を上げた。ムクンバさんはあの日の言葉を実行してくれていた。しかし、人手不足の状態は今も続いている。

（藤長英之）



お産を待つ家の分娩設備を点検する看護師のムクンバさん＝ザンビアのモンボシ地区

戦意高揚の2作品

戦中、旧満州の新聞に寄稿

小説「放浪記」で知られる作家林芙美子（1903～51）

0字詰め原稿用紙約50

徳島東部地域ニュースポーツフェス

6月8日開催

参加者を募集

徳島市など7市町は6月8日、「第1回徳島東部地域ニュースポーツフェスティバル」を開く。徳島東部地域定住自立圏内の交流を促進するのが狙い。4月8日から5月8日まで参加者を募集する。

フェスティバルを主催するのは徳島、小松島、上勝、松茂、北島、藍住、板野の2市5町。徳島市立体育館でカローリング、藍住町河川敷運動公園でパークゴルフの大会を開く。

参加無料。参加できるのは7市町に在住か、通勤・通学している中学生以上の人。申込用紙に必要事項を記入し、各自治体に持参するか郵送する。問い合わせは徳島市スポーツ振興課（電088（621）5427）。

（高崎扶美子）